

2/1 身近な水について考える 『令和4年度環境学習会』を開催



▲自分たちでろ過材の順番を決め、一番きれいな水になるろ過装置を目指す

水環境に関する知識や水の大切さを知ってもらおうと、平成25年から毎年開催されている環境学習会が町内9つの小学校で開催され、のべ150人の児童が参加しました。

柏小学校で5・6年生11人を対象に開催された学習会では、公益社団法人愛媛県浄化槽協会の木本大輔さんと宮崎雄太さんから、家庭に設置されている浄化槽の役割や地域を流れる川の自浄作用などの説明を受けました。

また、10種類のろ過材から7種類を選び、工夫を凝らしながらろ過タワーを完成させた児童たちは、泥水が限りなく透明に近い水となってタワーから出てくる様子を熱心に観察していました。

2/17 教科書でしか見たことない道具がずらり 郷土資料館で昔の生活について学び、触れる



▲羽釜を観察し、先人が施した工夫について考える児童たち

2月17日(金)・27日(月)・3月7日(火)、一本松郷土資料館を訪れた城辺小学校33人、柏・家串小学校9人、長月・緑小学校3人の3年生が当時の生活や使用されていた道具についての説明を受けた後、展示された昔の道具を見学しました。

米づくりで使われていた道具の説明を受けた児童たちは、今の農業とは比べ物にならない手間と苦労があったことを学び、馬や牛の力を借りて田畑を耕作していた当時の人々の様子を想像しながら熱心に説明を聞きました。

見学を終えた児童たちは、「見たことのない道具がいっぱいあった」「昔のお弁当箱は今のものと全然違ってびっくりした」と感想を話しました。

2/20 愛南の海にまつわる物語をアニメ化 海ノ民話「大猿島と小猿島」の完成試写会を開催



愛南町
公式
YouTube



▲アニメ製作に携わった関係者一同での記念集合写真

日本各地の海にまつわる物語を次世代に語り継ぐ日本財団「海ノ民話のまちプロジェクト」が制作したアニメ「大猿島と小猿島」の完成試写会が役場本庁で行われました。

嵐の海に落ちた小猿を助けようとする母猿の民話は、海の危険性や親子愛、命の尊さを伝えるアニメとして映像化され、今後教育現場や観光施設等で活用されていく予定です。

沼田心之介監督からDVDを受け取った木原荘二副町長は、「命の大切さだけでなく、町の特産品が盛り込まれたこの貴重な作品を活用し、ふるさと自慢の海の重要性を多くの人に再認識していただきながら、後世に受け継いでいきたい」と話しました。

2/
24 愛媛の柑橘が勢揃い
柑橘学習会を実施しました



愛媛
CATV
動画



▲JAえひめ南南宇和宮農センター源さんによる柑橘講座

町農業支援センターが町内保育施設を対象に毎年実施する柑橘学習会が、柏・城辺・一本松の各保育所とあいなん幼稚園で行われました。

学習会では、子どもたちが柑橘の花や成長前の果実について学んだほか、町特産の愛南ゴールドをはじめ南予で生産された15品種の柑橘を中心に、実際に触れたり食べ比べたりしながら五感を使って楽しく学びました。

子どもたちからは、「みかんは何で黄色なの?」「赤いブラッドオレンジを作ったのは何で?」「どのみかんも全部おいしかった」といった素朴な疑問や感想があり、柑橘について興味や関心を持つ貴重な機会となりました。

2/
27 持続可能な地域づくりを目指して
公民館関係者が一同に集まり研究集会を実施



愛媛
CATV
動画



▲笑いを交えながら自身の体験談を話す若松委員長

人と人をつなぐネットワークを形成し、地域に根差した活動を行う公民館の実践活動や取り組みを公民館関係者一同で考えていく、公民館研究集会が御荘文化センターで行われました。

会では、『持続可能な地域づくりをめざして』をテーマとした実践発表として、深浦公民館金澤貴主事と平城公民館小川加奈主事から事業紹介などが行われました。

また、愛媛県公民館連合会専門委員会の若松進一委員長による講演『公民館とまちづくり～公民館版SDGs～』では、公民館を巡る4つの重要課題から公民館を発展させるための16の目標を地域で推進するためには公民館がどのような役割を果たすべきか、具体例や笑いを交えながら紹介しました。

3/
1 救助活動に必要な知識や技術を取得
航空隊と連携して防災ヘリを活用した連携強化訓練を実施



愛媛
CATV
動画



▲揺れる機体からワイヤー1本で地上へ降下する

自然災害や山岳遭難などに備え、愛媛県消防防災航空隊と愛南町消防本部による合同訓練が南レク城辺球技場で実施されました。訓練は救助活動に必要な知識や技術の取得、消防防災ヘリコプターとの連携強化を図るとともに基本的な活動を理解することを目的として行われ、町消防本部から11人の隊員が参加しました。

隊員たちは、駐機した防災ヘリからホイストと呼ばれるワイヤーで航空隊員と共に降下し、再度吊り上げる投入回収訓練を中心に行った他、航空隊所有の資機材の取り扱いや確認も行い、空と地上の連携を強化して円滑な現場活動が行えるよう体制を確認しました。

3/1 感謝と決意 南高魂を胸に学び舎を巣立つ105人



愛媛
CATV
動画



教職員や在校生、保護者らに見守られる中、緊張しながらも決意に満ちた面持ちで105人の卒業生が式典に臨みました。

卒業生代表の中尾凱人^{よしと}さんは、「仲間と過ごした何気ない日々、楽しかったこともうれしかったことも分かち合える仲間がいたおかげでここまで頑張れました。これからはそれぞれの場所で目標に向かって突き進み、お互いに成長した姿で再会できる日を楽しみに努力していきたい」と述べ、保護者や教職員をはじめこれまで自分たちを支えてくれたすべての方々に感謝の思いを伝えました。

▲コロナに立ち向かった世代としての誇りを持ち、旅立つ生徒たち

地域おこし協力隊 活動日記

南高生の夢を叶える手助けを



こんにちは、今回は南宇和高校にある南光叶夢センターからスタッフ一同がお届けします！

南光叶夢センターは、愛南町の南宇和高等学校魅力化推進事業で生徒の「自学自習」をサポートする施設として、記念館（南高の敷地内）に2022年12月15日にオープンしました。「叶夢」という名前は南高生のアイデアからつけられたもので、センターの利用を通して「夢を叶えられる」ようにとの思いが込められています。センターではさまざまな学習ができる部屋や設備を整えており、我々スタッフがそれぞれの専門性で生徒の学習をサポートしています。3月10日（金）時点、大学等合格者延べ60人のうち国公立進学予定者は15人で、そのうち9人がセンター利用者です。

【スタッフより】

○伊良波 輝

京都府で生まれ10都府県で過ごしてきました。愛南町は自然が豊かで、訪れたその日にすっかり魅了されました。南光叶夢センターでは主に数学を担当し、進学を目指す生徒へ個に応じたサポートをしていきます。今は情報格差が減り、地元で夢を叶える選択が十分可能になりました。勉強に限らず可能性を広げる日々を過ごしていただきたいです。

○正木 伶弥

山梨県出身の両親の元、東京で育ちました。高校・大学時代のイギリスを含めると、愛南町は5つ目の町です。今までで一番自然と食材が力強く、道路も景色も最高な町です。初訪町時にあまりに気に入って、車で東京から引っ越して早4カ月、4月からは今までの英語経験・能力をさらに生かし、生徒の勉強のサポートをできればと思います。

○山口 聖

深浦で生まれ、旧深浦小学校、城辺中学校出身です。大阪から地元に戻って来て、自然の美しさや食べ物、特に魚のおいしさに感激しています。また、人と触れあうと改めて温かさや力強さを感じるのも、地域の方の力をお借りしながら、青年海外協力隊や教育支援コンサルティング、キャリア教育などの経験から生徒たちの学びや夢が叶えられるように、また地域が元気になるような活動をしていきたいと思っています。

南光叶夢センターは4月から新たに2人のスタッフを加え、5人態勢で南高生の学びをサポートしていきます。そして生徒が輝くことで、南宇和高校が、愛南町がより輝くように活動していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします！